



会員増強成功の秘けつ

出席者（敬称略）

- 第 2540 地区・秋田県 小坂 良一 横手 R C
 - 第 2550 地区・栃木県 篠崎 博司 佐野 R C
 - 第 2600 地区・長野県 丸山 裕一 松本空港 R C
 - 第 2640 地区・大阪府 堀本 欣吾 堺フラワー R C
 - 第 2720 地区・大分県 末宗 為十 宇佐 R C
 - 司 会
 - 第 2520 地区・宮城県 桑原 茂 塩釜 R C
- パストガバナー／ロータリー・コーディネーター

全員で取り組む

桑原 今日、今年度、会員増強に成功されたクラブの皆さんにお集まりいただきました。皆さんから、忌憚ないお話をいただき、会員増強に苦慮しておられるクラブの参考になればと思います。まず、クラブの現況をお願いします。

小坂 横手ロータリークラブ（R C）です。私が入会したのは 1976 年ですが、当時の会員数は 63 人でした。ピーク時は 70 人台だったんですよ。その後、だいたい 60 人台で推移していました。2006 年、クラブが 50 周年

を迎えたときの会員数は 50 人ほどでした。どういうわけか、ベテラン会員の息子があまり入らないんですよ。私たちがらいままでは、親父が亡くなったら、必ず息子が入ったものですよ。それがなくなって、あっという間に 36 人になり、増強しなければだめだと、危機感を持ちました。

それで、「増強実践特別委員会」と、委員会名に「実践」という言葉を入れ、特別委員会をつくりました。会員を 7 チームに分けて、オールクラブで会員増強に取り組みました。それで 14 人増やしました。1 チームで 2 人ずつ増やして 14 人を増強したということではありません。7 チームで 14 人増や

したということ。全員で取り組んだということなんです。

「この人がいい」と思っても、会員候補者は、入会することに迷いがあります。会員候補者の奥さまが、亡くなられた元会員の奥さまに同窓会で偶然会って、「うちの主人が今悩んでいますよ。ロータリーどころではないようだけれど」と相談をされました。亡くなった元会員の奥さまが、「ロータリーはいいですよ。うちの主人は楽しんで、皆さんにお世話になったんだから」と話してください、候補者の方は入会されることになりました。「私はロータリーに入りたかったが、横手 R C に入れなかった。ロータリーに誘われたら、喜んで入りなさい」という、年配の方の言葉で入られた方もいます。直接の推薦者だけではなく、周りの人たちの助言も大切です。

桑原 女性会員は？

小坂 今年度、初めて 1 人入れました。篠崎 今、重要なことを言われました。一生懸命活動をした親の息子は絶対に入会しない。どういう具合なんだか。でも、本当にそうだと感じています。

だから、何をしたら、ベテラン会員の息子が入ってくれるのかを考えていかななくてははいけません。

桑原 几帳面な人は、『ロータリーの友』とか、『クラブ会報』をきちんと整理してしまっておくので、ロータリーの活動が家族の目に入りません。また、ロータリーで忙しいと出歩いている、子どもたちも自分の誕生日にロータリーでいなかった、ということを感じていたりします。『ロータリーの友』をそこらに放っておくと、暇なときに奥さんが見たりするので、ロータリーを理解するようになります。これ、笑い話のようですが、そういうこともあるかもしれません。

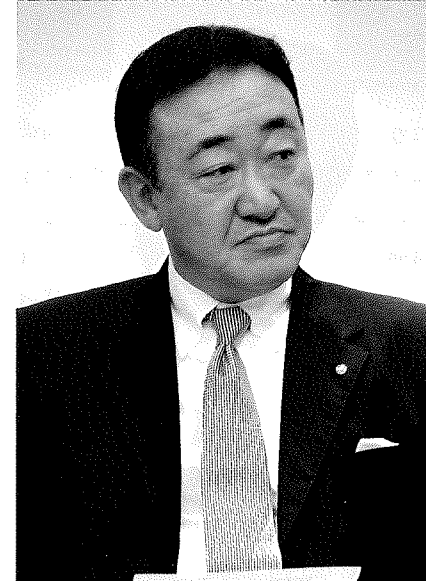
末宗 その通りです。

楽しい例会 楽しい同好会

丸山 長野県の松本市、松本空港 R C から来ました。信州まつもと空港がございりますが、その空港の名前を冠しているクラブで、空港に協力しようと、事業も空港に関係するものをメインとして実施しています。今年が 25 周年で、記念事業も実施しました。今年度、私は幹事を務めています。54 人でスタートして 8 人を増強しました。クラブも 25 年ということですが若いのですが、会員の平均年齢も 55.3 歳と若いのが特徴です。私も 40 歳代ですが、38 歳で入会して、9 年目で幹事が回ってきました。現在クラブには 30 代前半という方もいらっしゃいます。80 歳近い先輩もいらっしゃいますが、比較的若いクラブです。

地区の会員増強の会議で、「親睦」が大事だと言われましたが、同好会も充実しています。ゴルフ同好会は皆さんのクラブにもあると思いますが、私たちのクラブには、俳句やバイクの同好会もあります。30～40 代の会員や女性会員が入れるようにということも地区の目標ですが、女性会員は 4 人います。

長野県ですから、山の上で例会を開



桑原 茂（塩釜 R C）

催したりもしています。魅力ある例会でないと、なかなか長続きしません。新会員も大事ですが、会員維持も大事だと思います。

桑原 趣味で皆さんと交流を深めている、というように考えてもいいんですかね。

丸山 そうですね。若い方はロータリーをあまり知りません。私もそうでしたが、入会してから知っていくというケースが多いのではないかと感じています。それは決して悪いことではなくて、入ってから勉強してもいいと思います。では何で入るかという、人間同士のつながり。入会時はロータリー活動が一番の目的ということではなくて、入会后、ロータリーのことがわかってきて、「ロータリーってやっぱり素晴らしいんだな」という方が割と多いような気がします。

小坂 若くていいですね。

桑原 若い方が入会していかなければね。ロータリーも後継者が必要ですから。私は 20 代後半で入会しましたが、入会した時は何もわかりませんでした。勧誘された時には、私のお客さまがズラーッと並んでいて、断れない雰囲気もあったんですけど。

丸山 私もお客さまから誘われて、断れない感じで入会しました。

桑原 若い方は、ロータリーのことをどのように見えていますか？ ロータリーに誘ったときに、最初に何か言われることはありますか。

8月
会員増強 および 拡大月間

丸山 ロータリーの奉仕について、表面的には知っているのですが、細かいところはご存じではないですよ。「私はロータリーにはまだ早い」とか、「敷居が高い」ということをおっしゃる方が多いです。

桑原 退会なさる方はいらっしゃるんですか？

丸山 実はこの期末になって 3 人。1 人は転勤、あと 2 人は仕事の都合で。篠崎 栃木県の佐野 R C です。今年度、8 人を入れて 67 人になりました。来年度は 5 人を入れて 72 人にしると、会長エレクトに言われております。引き続き私が増強委員長を仰せつかりました。

桑原 今年度これだけ増強されているのですから、来年度もそれぐらい？

篠崎 3 人は確実に入る人がいますから、あと 2 人いればいいのかなあ、と考えています。数が多くなってくるとタガが緩むという、なんとなくクラブの中が大まかになるかな、と感じています。入会当初は家族委員会に属してもらっているのですが、企業のトップであり、地域の名士ですから、その辺の呼吸がうまくいっていないかな、と感じることもあります。しかし、67 人になりましたので、各委員会に 3 人ぐらいずつ所属することになり、クラブの活性化になります。最近を意識的に夜の例会を多く取り入れていますが、出席者が 50 人以上になり、いいかなと思っています。

私が言うまでもなく、毎週の例会が楽しくなくては、会員が増えないと思っています。お金はあまりかけられませんが、おいしい料理にするとか、夜の例会を積極的にやるとか、また、イベントも数を増やすなど、ロータリーは楽しいということ、積極的に発信していくことが大事だと思います。

桑原 篠崎さんのクラブに女性会員はいらっしゃるんですか？

篠崎 一人もいません。入れる気がないですね。

桑原 入れる気がない（笑）。ずっと

調べましてね、伝統あるクラブほど女性会員がいません。

篠崎 そういうことなんですよ。

桑原 楽しい例会と言われましたが、まさにその通りだと思います。夜間例会をなさっているクラブはありますか。

丸山 その月によって違いますが、月1回くらい。通常は昼ですが、納涼例会とか、クリスマス例会とか、登山例会を例会変更でやっています。

篠崎 今年度は月1で。新年度も多分やるのではないですかね。



篠崎 博司(佐野RC)

これは私個人のやり方ですが、若い人を入れるときには、「鍛えてあげるから入れ」と言います。それと「自分で時間を作る人間になれ」ということを話します。

今は、1業種5人まで入会できますが、私たちのクラブは1業種1会員でやっていきたいと思っています。同業者の方が同業者の人を入れるのはいいのですが、他の業種の人が入ると友達感覚で入れる場合があります。そうすると前からいた人がスッと身を引くということが考えられます。「5人、入れるからいいだろう」という考えはいいかなものだろうかと思います。今入っている会員のことを考えながら、行動していったほうが、長く続くのではないかな、というような感じがしています。

堀本 第2640地区、大阪南部と和歌山全県です。私は、地区の会員増強委員長も務めていますが、自分から率先してやらなければ、各クラブにお願いすることはできない、ということが、会員増強の一番の理由です。私共の堺フラワーRCは伝統がありません。2年弱です。私は移籍して今のクラブに来ましたが、5～6人がロータリー歴のある方で、あとは新しい方です。私自身もそうですが、他のクラブを追い越そうという意識が、会員の中で芽生えています。2年足らずですが、子クラブをつくりました。インターアクトクラブの提唱もしました。第3720地区、韓国のクラブと

姉妹クラブも締結しました。地区大会や地区協議会の手伝いにも出ました。私が見ている限りでは、うちの会員は、5年以上のロータリー歴のある方と遜色ないと思っています。

堺地区には13クラブあります。いまだに女性会員のいないクラブがあります。若い方と女性をターゲットにしましょうということで、各クラブを回ってお願いしました。そして、自分自身でも実践をしました。

現在、同じグループで一番多いのが堺RC。ここが70人ほどです。何としてでも堺RCの次に行こうという目標を持ちました。先ほども話に出ましたが、一人で言ってもだめなんですよ。クラブ全体にその雰囲気がないと、会員増強はできません。私共のクラブは新しいクラブですから、みんな同じです。同じように動いてくれました。それが今日の成果だと思っています。

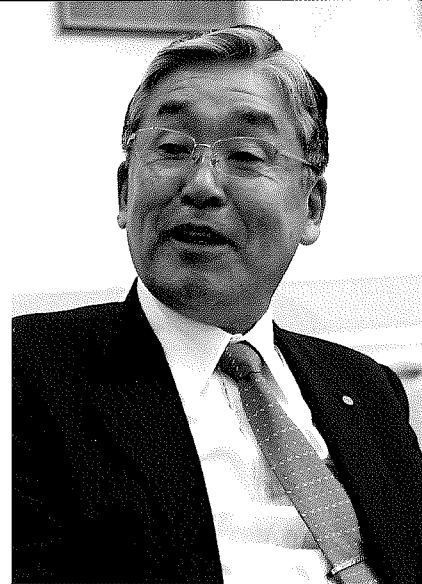
土曜日の午前11時から例会を開いています。ホテルでの例会ですが、ホテルには任せないで、全員で準備をします。そして、全員で片付けます。

25人で創立して、2人が辞めて、23人。今年度は、そこからのスタートです。それでやっと40人までできました。先輩の言葉で一番響いているのは、増強委員長にだけ任せていたら増強はできない、ということです。僕自身も、入会して3～4年目は辞めたかったです。面白くなかったのです。だからうちのクラブでは、新しい会員に1人ずつついて、いろいろなことを教えます。いろいろなことを楽しみます。ロータリーで一番なのは、出会いです。

ロータリーは「人」がつくる

桑原 ありがとうございます。17人と簡単に言いますが、すごい数字だと思います。他のクラブへのワンポイントとして皆さんが教えてあげたいとしたら、どんなことを考えますか。

小坂 先輩がつくってくれたクラブ



末宗 為十(宇佐RC)

を、こんなに減らしていいのかなということ。誰かが声を上げて、会員全員が危機感を持たなければだめですよ。先ほど申し上げましたように、周りの人の助言があって入会が決まることも多い。個人の力ではありません。

丸山 私は「人」だと思っています。クラブをつくっているのは、ロータリアンという人です。新しい会員を連れてくるのも人です。連れてくる方も、経営者なら誰でもいいというわけではありません。ロータリアンにふさわしいそれなりの事業をやっている方、品格のある方、というのを見ている。お互いが共鳴したときに、入会していただけるような感じがしています。

桑原 そうすると、自分を磨くための勉強をしていかなくてはいけないということもありますよね。

丸山 そうですね。私の場合は、9年前に入らせていただいたのですが、地元のすごい会社の社長ばかりだったので、例会へ行くのが最初は辛かったです。知っている方もあまりいらっしゃらなくて、辛い、あまり行きたくないという時期もありました。それでも委員会活動をしながら何とか行っていたら、だんだんと親しくなってきました。

また、経営者は、良くも悪くも孤高の存在になってしまいがちで、誰かからものを教わるということがなくなってきます。30～40代で比較的若いときに入会すると、ロータリーには大先輩がたくさんいらっしゃいます。経

営のこのことのみならず、その方の生きざまも垣間見せていただくことが時々あります。先輩方と親しく接する機会が、意外に他ではなくて、大変貴重な時間になっていると思います。

末宗 皆さまと同じですが、一言で言えば、気持ち、心だと思います。僕は建設業ですが、地域の消防団に入らせていただいたり、剣道のクラブも入らせていただいたり、異業種の方と付き合う機会が多かったんですよ。ロータリーも同じようなものですよ、3年ぐらいいはね。それで「なんでこんな会に入ったのかなあ」って。嫌で、嫌でたまらなくて。

推薦者が同級生だから、何をすればいいのかわかりませんでした。そしたら、出席だけをすればいいって言ったので、入会をして、出席を守ってきました。それをみんなが見てきて、今年度、会長を務めるまでになりました。今年度は、出席と会員増強について、これぐらいを目標にしたいと話したら、皆さんが協力してくれました。

桑原 常日頃の友達の付き合いですね。末宗 だから1業種1人というのは大事ではないですか。

桑原 なるほど。それに、会長に熱意がないとなかなか会員増強も進まないということですね。

末宗 そうだと思いますね。堀本 私共のクラブでは、誰でも入れるというのではなく、二重、三重の入会審査をしています。それでなければ、もう少したくさんの人を入れていきますよ。

桑原 オリエンテーションもきちんと行っていないことがあります。候補者にはよくロータリーの情報を理解していただかないと、後で退会をする理由の一つにもなるので、オリエンテーションは非常に重要な役割の一つだと思います。

年齢の差が結構あるクラブでは、例会になると、年配の方は固まって座り、そこに若い方が入っていけない、とい



堀本 欣吾(堺フラワーRC)

うことがあります。

小坂 私のクラブでは、SAAが責任を持って座席指定をしています。それで常に入れ替えています。どちらかというと古いクラブなもので、60歳以上の会員が多いのですが、私たち70歳以上の人は、分かれて座るように組まれています。

桑原 それはいいですね。われわれの地区は被災しています。クラブの例会も開けないところもありますし、クラブ自体がなくなるかもしれないと心配をしておりました。ところが、例会場がなくても、なんとか皆さんでつないでいます。また、そういったクラブが会員増強をしているんですよ。被災地でのロータリーの支援活動を見て、支援を受けた側の方で「ロータリーってこんなにいいことをしているんですか。ぜひロータリーに入れてください」と、自ら入会を希望されているんですよ。このことを考えますと、きちんとしたプログラムを考えプロジェクトを実施すれば、入会希望者が出てくるということだと思います。

小坂 そうそう。

末宗 今の若い人もしっかりして、自分を鍛えて人間形成をしたいって思っている人は結構いますよ。その場を与えてあげるのがロータリーの一つの使命ではないかと思っています。

小坂 そうそう。

新会員の活躍の場を増やす

末宗 今の若い人もしっかりして、自分を鍛えて人間形成をしたいって思っている人は結構いますよ。その場を与えてあげるのがロータリーの一つの使命ではないかと思っています。一方



小坂 良一（横手RC）

で、自分の利益だけを追求する人がやめていくのかなあ、というところが見えます。

小坂 クラブにボスがいたらダメですね。

堀本 僕もそう思います。

末宗 それは同感です。

篠崎 その通りです。しかし、ボスという意味ではなく、指導していける人を育成することは大事だと思います。会社と同じで、後継者育成と考え、育てていくことが大事だと思います。私は5～6年前に会長をやりましたが、こういう人をここに張り付けるとクラブが活性するかな、というのを決めていまして、そういう人に活躍の場を与えるよう、今やっていますが、パーフェクトにうまくいっているわけではありません。しかし、おかげさまで67人になりましたから、新年度も今年度と同じく、8人入れるということになると、75人になると考えて、気分よくロータリー活動をしようと思っています。

桑原 会員歴や年齢がさまざまなクラブの中で、何か工夫されていることはありますか。

小坂 私のクラブでは、今年度14人増えましたが、新年度の委員会構成を見ますと、今年入ったばかりの若い会員が委員長になっている委員会がいっぱいあります。それで、その下に古参の会員をつけています。そのように組み合わせられています。会員数が増える

と、各委員会の人数も増やせますから、このようなことができるようになります。

丸山 私共のクラブには、ビジョンプロジェクト委員会があります。新会員のための委員会ではありませんが、忌憚のない意見を吸い上げる委員会です。今回は若い方、今回はベテラン、あるいはベテランと新会員ミックスといった具合で、年3～4回、テーマを決めて、意見をうかがっています。

桑原 世代によって物の見方や考え方、仕事の仕方やネットワークの作り方が違うというデータがあります。そういったことを考慮しながら理解をしないと、バランスが崩れてくる、ということです。例会やクラブの活動についても同じことが言えます。

堀本 わかります。

末宗 世代ごとの人数を頭に入れておくということは、一番大事なことだと思います。

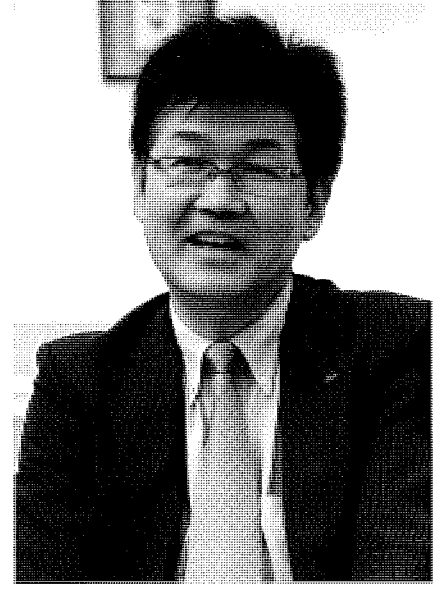
小坂 私のクラブには、新入会員交流会があります。10年ほど前につくりました。入会して3年ぐらいの人が委員長。そこで、新会員に、ロータリーについて気づいたことなどを話してメモを出してもらっています。

桑原 会員維持を考えますと、3年未満の方が辞められる率が高いという現実があります。これを超えるとある程度持つというデータも出ていますので、3年未満の方の教育というのが非常に重要になってくるんですね。

末宗 そうですね。何を教えるのかというと、例えば、「例会には絶対出席しなくてはいけない」とか、「ニコニコって何?」とか。きちんと教えてあげればいいと思います。

丸山 なるべく新会員の活躍の場を増やすというのを意識しています。

篠崎 私共の、今回8人の新会員は、私自身を信用して入ってくれたという部分がかかなりあります。口幅ったいですが、今、自分が人生の中で調子がいいという部分があり、そういう人の誘いならお世話になるかと思われたので



丸山 裕一（松本空港RC）

はないかと。

来年も増強委員長を拜命しましたので、今年度と同じように増やしていきたいと思っています。先ほども言いましたように、会員維持をする意味でも、「例会は本当に楽しいんだよ」ということを、あからさまに見せつけることを、演出としてやっていければ、一度に何十人も減るということはないでしょう。一方で、何十人も増えるということもないだろうから、今いる会員が「わがクラブはいい」と思うよう、限りなく追求していかなければ会員数は増えないし、クラブの維持もできないということが現実だと思います。私は、ロータリーに青春をかけようと思っています。

桑原 皆さんからいろいろな話を聞いて、私も非常に勉強になりました。本当にありがとうございます。

今日、いろいろなお話が出ましたが、とにかく熱意をもってやるということと、それに対して全員で参加することですね。全員を参加させるためのプログラムが必要ということですね。そうすると、やっぱり会長がやる気を出さないとなかなか会員が増えない、ということですね。今日は、いろいろとご指導いただきましてありがとうございました。新年度もさらに皆さんのクラブの会員が増えていることを楽しみにしています。

※文中の役職は、2011-12年度のものです。